

若き友へ

1994年5月24日

経済学部教授 高島 均

毎年、折にふれその時その時の新聞やテレビを賑わしている出来事について、また、私自身の心象に深く留まった事について、私は如何に考えるか、そして君たちは如何に考えるか、「若き友へ」と題して、君達に訴えてきました。今年も、出来るだけ多くの事柄について、語っていきたい、と思います。尤も、昨年でいえば、精一杯頑張って4回しか出せませんでしたし、向こう2年間は、学科主任としての雑務に追われるので、どれだけ出せるか判りませんが。とにかく、その中で、一つでも君達の関心に留まる事があったならば、君達も自分の考えを文章にしてみして下さい。自分の考えを文章にしてみる事によって、また、それを読み直したり友人と議論したりする事によって、物事を論理的に考え表現する力がついてきます。たとえ、受け身であろうとも、ある事について自分の考えをまとめる訓練をするうちに、社会に対し、人生に対し、君達の感覚は、より繊細に、より鋭敏になっていきます。その事は、大学における勉強の上で、知らず知らずのうちに、大きな効果を与えるものです。

所感94 - 01 娘たちへ、息子たちへ

大学に入学してはや1年経ちましたね。後輩も出来、自分自身が「大学生」である、という事にも慣れ、本格的な大学生活に入っていく時となりました。この1年間を振り返ってみて、貴方の大学生活は何の様なものだったでしょうか。良い意味でも悪い意味でも予想(期待)した様なものだったでしょうか。それとも、期待した程でなかった、或いは、予想もしていなかったものであったでしょうか。本格的な大学生活がいよいよ始まるようとしている今、二十数年前に大学生活をおくった先輩として、貴方に伝えたい事があります。

人は誰でも独りでは生きていく事ができません。人が人たり得るのは、人と人との係わりを通じてであり、古来、この事に気づいていた私たちの祖先は、「ひと」の事を、人と人の間、「人間」と書き表したのです。

人間は、一人ではその生命を維持していくだけの必需品を造り出し、獲得する事が出来ない以上、一人では生きていく事が出来ないのは自明の事です。しかし、ここで、人間は独りでは生きていく事が出来ない、とっているのは、もっと精神的な意味に於いてです。人類の歴史の中で、人間が独りで生きていったのは、砂漠の隠者ぐらいでしょう。他は、統べからく、この世の欲を捨てた人間といえど集団生活を営んでいる様に、他人を必要としています。それは、人間は誰でも、楽しい事・苦しい事・嬉しい事・悲しい事を、他の人間と共有したいという本能的な欲求を持っているからです。そして又、時を経て、この様々な体験を、共通の感情をもって振り返りたい、という欲求を持っているからです。

共通の体験に対して、共通の感情を持って振り返る事の出来る友は、一つには、幼馴染みの友です。しかし、幼馴染みは郷愁の中にあり、その郷愁は、幼少時を共に過ごさなくとも、同じ時代に生きた人間であれば、かなりの程度共有する事が出来ます。これに対して、共通の体験に対して、共通の感情を持って振り返る事の出来るもう一つの友である青春時代の友は、個々の人間にとって、より重要性を持っています。何故ならば、青春時代を何の様に過ごしたか、という事は、将来におけるその人間の在り方に大きな影響を持っているからです。従って、青春時代に共通の体験を持っているか否かという事は、お互いを理解する上で決定的な作用を持ちます。ですから、貴方が、その学生生活の中で、心からの友や尊敬し得る師を見出せる様、望んでおります。

ところで、学生生活という形で青春時代を送ろうとする人間にとって、最も大事な共通体験は、勉強です。サ - クルでもアルバイトでも、共通の体験を持つ事が出来ます。しかし、サ - クルもアルバイトも、学生時代でなくとも出来ます。勿論、勉強も学生時代でなくとも出来ます。又、社会に出てからも、日々の勉強が必要とされるでしょう。しかし、サ - クル活動やアルバイトの体験の中身は、学生時代であろうが社会に出てからであろうが、質的な差がありません。それに対し、勉強という事柄は、学生時代と社会に出てからとでは、大きな差を持っています。それは、学生時代の勉強には、同じ事を共に勉強してくれる友があり、又、判らない所を教えてくれる先生がいる、という点です。社会に出てからでは、ライバルこそあれ、無心の心で共に勉強してくれる友もなく、判らない所を教えてくれる先生もありません。それは、孤独で、自分一人で立ち向かわなければならないものなのです。

従って、人生の何時の時点でも、思い立ったならば勉強をする事が出来る訳ですが、学生時代程、勉強する、という事に対して、人生の他の時点に比して優位性を持っている時はないのです。貴方が、現在持っているその優位性は、社会に出てしまった人間から見ると、羨ましくてならないものなのです。だからこそ、卒業生に話を聞くと、誰も彼もが、学生時代にもっと勉強しておけば良かった、と言うのです。貴方が現在持っている、この素晴らしい優位性をあたら無駄にせず、友人と共に勉強しながら、豊かな知性を培っていただきたい、と思います。

最後に一つ、付け加えたい事があります。豊かな知性は、豊かな感性があって初めて花開くものです。人々が目も留めぬ道端の草でも、小さな花を咲かせ、そこには、又、小さな虫たちが訪れて来ます。それに目を留める事が出来る繊細さと豊かさを持つものに対してだけ、道端の小さな草は、自然界の神秘・生きる事の美しさ、此等を造った神の御業の素晴らしさを教えてくれます。貴方が生きているこの社会も、そこに起きている小さな事に目を留める事が出来る繊細さと豊かさを持つものに対して、人間社会の仕組みの全てを見せ、そこに暮らす人間の素晴らしさと哀しさ・社会の仕組みの矛盾とそれを解決しようとしている人間の力強さを見せてくれます。貴方が、繊細で豊かな感性を持って、この社会を見つめ、友人と共に豊かな知性を花開かせてくれる事を、切に望んでおります。